

## <もくじ>

ごあいさつ	.....	1
最近の活動報告（時ノ寿ホームページ・ブログより）		
お茶ブームなるか	.....	2
縁が支える森林再生	.....	2
ブータンへの誘い	.....	3
ライオンズクラブでスピーチ	.....	4
山師冥利の枝打ち	.....	5
個人所有の森をNPOが守る	.....	5
森と海のつながり	.....	6
木材のピンとキリ	.....	7
未曾有の地震災害	.....	7
4/30植樹祭の意味	.....	8
4～5月クラブ活動予定	.....	別紙
いのちの森づくり植樹祭チラシ	.....	別紙

## <ごあいさつ>

3月11日起きた東日本大震災で亡くなられた方々に心より哀悼の意を申し上げます。そして、最愛の御家族を亡くされ、さらに住宅をも跡形なく流されてしまい、深い悲しみの中にもありながらも懸命に避難生活を送られている皆様に、心から尊敬と激励の言葉を送らせていただきます。

さて、クラブ会員の皆様におかれましては、被災地にすでに可能な支援の行動をなさっている方も多かろうと存じます。時ノ寿の森クラブとしましては、当面は会員個々において自らの生活規模を抑制することで、被災地に必要な電気や物資に協力をしていただきたいと思います。そして、未来の子どもたちの命やDNAを守ってくれる大切な森づくりについては、従来にも増して一層の努力をしてまいります。

来る4/30「3回いのちの森づくり植樹祭」については、別紙のとおり行いますが、成功させたいと思いますので、クラブ会員の皆様のご参加をよろしく

願いたします。なお、植樹祭の前日準備、当日の参加者をあらかじめ把握したいので、参加の有無を3月31日までに事務局までご連絡ください。

## ＜最近の活動報告＞（時ノ寿ホームページ・ブログより）

2011年2月6日(日)

### お茶ブームなるか

掛川深蒸し茶が、世間で大きな話題を呼んでいる。1月中旬のNHKテレビに始まり民放各局も、掛川市民の健康がお茶を愛飲すること、さらにそのお茶も深蒸し茶であるがゆえに、健康に良い影響を及ぼす成分が最も抽出されるというのである。茶産地にとって、これに勝るコマーシャルはないというほど、局の取材結果が番組で報道されたのである。情報過多の昨今、いかに消費者の求めている情報を提供できるかが、コマーシャルの命であるということを思い知った。



嗜好品としても長年お茶を好み、さらに農薬に依存しない安全な有機栽培による煎茶を求め、趣味の延長で自ら自園で自製している私にとっては、今回の反響は何も影響はないが、古来からの日本人の茶文化が健康にも良いということが全国に発信されたことは、とてもうれしいことである。立春も過ぎて、厳寒の今冬も季節は春に向かって足早に動き出している。

わが茶園は、まだ越冬中であるが、目を覚ます前の準備として有機100%のおいしそうな肥料をたっぷりと与えてやった。12月下旬からカラカラ天気が続いているので、茶園にとってはたっぷりと慈雨がほしい。

2011年2月12日(土)

### 縁が支える森林再生

ここ数日、NHKテレビ番組では、今の日本社会の現象の一つとして「無縁社会」を捉えた討論がされていた。今夜も、いくら仕事を探しても職に就けない人、会社員でありながら存在感を見いだせない人、一方仕事で自己有用感に満ちている人などが登場し、率直な意見を交わしていた。人と人とのつながりを持つシステムや自分の価値を見出す場所を、今までの日本社会は「仕事」と決めてい



た感が強くなかったか、今日を無縁社会というけれど、インターネットをはじめ人と人とのつながりをもととしたら、あふれるほど多くの手段や道具、機会がある、という意見など・・・。

このように多くの意見が出される中で、全国には15歳から40歳代まで60万人が家族とも友人とも社会とも無縁の孤独にさいなまれている人がいるという現実がある。今夜の討論でも、仕事以外のボランティア活動で人とのつながりを見つけたらどうかとの意見に対し、ボランティア活動には安定した生活を確保できる仕事が前提条件だとの意見など、経済社会の厳しい現状の中での「生きかた」の多様化が、多くの日本人の若者を苦悩させている。

このような社会になった原因は、高度経済成長における教育観や価値観の多様化、豊かな物質文明が、急速な経済不況によって努力や運の差だけではない不平等な社会が拡大しているせいではないかと思う。その責任は、国も企業も、自己もすべての社会全体にあると位置付けるべきで、私たち一人一人も「いつ自分もそのような状況に陥ることになるかもしれない」と考え、今の仕事や家庭に不満を抱くのではなく、自分以外の他人に目を向けたり、社会に対する奉仕の視野を広げてみてはどうだろう。

森林再生活動は、健全な心身があれば誰でもできる。自己有用感が薄れているという方、どうぞ時ノ寿の森に来てみてほしい。

2011年2月15日(火)

### ブータンへの誘い

今朝の毎日新聞のコラム「余禄」に、経済成長ではなく精神的な豊かさを優先する「国民総幸福」の国策を貫いたブータン前国王が、地球環境の保全に貢献した人物を顕彰する今年の「KYOTO地球環境の殿堂」入りの1人に選ばれたとあった。現在、小学校からの英語教育やインターネット・テレビ放送の広がりなど国際化の流れが急なブータンだが、近代文明の恩恵も必要に応じたペースでという姿勢を貫いていると、称えていた。そして「猛烈な勢いで近代化を進め工業技術では世界のトップランナーに躍り出た日本。一方で美しい田園風景は荒廃し、孤立した人々の無縁社会が広がる。私たちはブータンから学ぶことは多い。」と、結んでいた。



このコラムを読み、何年か前に読んだ辰濃和男さんの著書「太古へ」（朝日新聞社）を思い出し、無性に読みたくなってしまった。本棚から取り出して拾い読みをしながら、ブータンの国民性に感動と敬意を新たにした。私をブータンに誘わせてくれた辰濃和男



さんの新玉の文章を、そのままご紹介しよう。

「ブータンの人たちは大自然を敬い、大自然とていねいに付き合っている。…中略…。ひとことでいえば、それは「融和」である。あるがままの森や草原には無尽蔵の宝物がある。それを壊すな、万物に融和して生きよう、万物に融和して生きたい、という祈りの声がブータンの山野にはあふれていた。人間だけが万物に優れた存在なのではない。人間は万物の霊長なんかではない。人間もまた、万物の一員にすぎないことをあるがままに認めよう。奢りを捨てよう。森や滝や雲や緑や、それらのものこそが、万物の母であり、その母の前では人間はちっぽけな存在であることを謙虚に認めよう。謙虚に認め、幸せを与えてくれる山の神の前にぬかずこう。そういう謙虚さに裏づけられたものが、ブータンの人たちのもつ「融和」の考え方なのではないか。友愛の絵を見るたびに、私はそんな思いにとらわれた。」

写真は、まだ残されている豊かな「時ノ寿の森」の萌える広葉樹の緑だ。

2011年2月17日(木)

### ライオンズクラブでスピーチ

今夜、静岡県磐田ライオンズクラブの例会に招かれ、私たち時ノ寿の森クラブの森林再生活動の紹介をさせていただいた。立派な企業家の皆様の前で語るには、まだまだ苦労も実績も足りないことは承知しながらも、わがクラブ会員Sさんの夫君からご案内をいただいたので、森林再生活動への参加・協力を広く社会に求める願ってもないチャンスと思い、勇気を出して話をさせていただいた。



ライオンズクラブとは、企業家の皆様が自らの意思により、自らを高めるとともに社会の平和と自由のために奉仕しようという崇高な理念に基づいた組織であることを、参加者一同唱和する「ライオンズの誓い」を聞きながらあらためて知った。そう言えば右肩上がりの時代には、大企業がこそってメセナとかフィランソロピーと称して社会文化・奉仕活動をしていたことを思い出した。

しかし、厳しい経済環境の中では、企業家の皆様個々にとっても、ライオンズ活動がかつてのような状況ではないようである。会長さんの開会の御挨拶でも、活動の活発化のために会員確保に頑張ってもらいたいとおっしゃっていた。

つたない私の話とパワーポイントによる映像で、地域に広がる森林の荒廃の現状、また次代の子どもたちに豊かな環境を引き継ぐために森林保全の重要性、さらにはそのような課題解決のための森林再生活動には、広く社会の多様な人々による多様な参加が必

要であることを訴えた。さすが社会の表・裏を知りつくされてこられた方々、日本の森林保全の政策はまだまだ本気に行われてはいない、と現状への厳しいご意見もあったが、私たちの地道な森林再生活動を知っていただき、参加者の多くの方々が真摯にエールを送ってくださった。

無縁社会の広がり懸念される日本社会だが、市外の磐田ライオンズクラブの皆様から、こうして温かい支援の声を受けると、縁の大切さを痛感する。次代を担う世代たちのための森林再生活動に勇気と元気が沸々と湧いてきた。磐田ライオンズクラブの皆様ありがとうございました。

2011年2月22日(火)

### 山師冥利の枝打ち

林業における通常の枝打ちは、樹齢20年くらいまでに済ませるそうで、1日に出来る枝打ちは概ね20本程度が限界のようだ。林業は3K（キツイ・キタナイ・キケン）労働の代表格だと、世間では言うかもしれない。たしかにキケンでキツイ作業だ。しかし、枝打ち作業では、3つ目のキタナイという言葉は当てはまらない。キタナイというよりも、「カッコイイ」とか「キモチイイ」、あるいは「キレイ」という方が適切ではないかと、体験して思う。なぜなら、「カッコイイ」は、鳶職さながらの高い木の上での枝打ち作業は、男が見てもほれほれする。また「キモチイイ」というのは、高所恐怖症の私であるが、枝打ち作業では高所の怖さよりも木の上の爽快感が勝り、木に登りたくなってしまふのである。そして、枝打ちを終え、木から下りて見る森林の美しさは「キレイ」そのものだ。



林業は3Kのキツイ、キケン、キタナイ仕事もあるが、枝打ちのように「カッコイイ」「キモチイイ」「キレイ」の感覚がそれを勝る。

ぜひ、山師冥利に尽きる「枝打ち」やってみてほしい。病みつきになること請け合い。

2011年3月1日(火)

### 個人所有の森をNPOが守る

わがクラブが森林再生活動をしている静岡県掛川市倉真地区は、報徳運動のゆかり地である。この地区には、倉真報徳社が存在し、地域の志高い長老たちが今でも報徳運動を静かに継承している。

そのような土地柄であるが、地区内の森林は深山でも里山でも、そのほとんどは手入

れが行き届かず、荒廃してしまっている。かつて苦勞して植林された森林であるので、荒廃した森林であっても所有者にとっては感慨深いものがあるに違いない。所有者の気持ちは、尊重しなければいけないが、森林は感慨深く見ているだけでは守ってはいけない。したがって、わがクラブでは、そのような状況にある個人所有の森林を、公益的機能を持つ公共財と位置づけ、所有者の理解と協力の基で連携し、豊かな森に再生する活動をしている。現在活動中の森林も、同様なケースの森林である。



2011年3月4日(金)

### 森と海のつながり

昨日静岡県御前崎市の市民グループのみなさん30人が、わがクラブの活動を視察にられました。一行は、御前崎のまちづくりをめざしおられるコミュニティーカレッジのグループとのことでした。

大型バスで来られたため、残念ながら活動拠点の時ノ寿までご案内することはできませんでしたが、倉真地域生涯学習センターをお借りし、そこで映像を使



ってわがクラブの活動状況と将来ビジョンを語らせていただきました。まちづくりに熱心な方だけあって、私のような下手な話にも目を輝かせて聴いてくださいました。

御前崎市は、掛川市から南に道のりで30数キロの位置で、海に面していて南国情緒の漂ういい街です。話の中でも、森と海のつながりはとても大事で、私たちの森づくりは源流部から河川の注ぎ込む海岸部までの流域全体の活動に広げて行きたいと申ししたところ、御前崎市のみなさんは共鳴してくれました。聴くところによれば、遠州灘の海岸も大変荒れているようで、さらに海岸部の農地も荒廃農地そこかしこに広がっているとのことでした。

これを契機に、ぜひわがクラブとの連携を保っていきたいと思いました。御前崎市のコミカレネットワークのみなさん、今後ともよろしく願います



2011年3月8日(火)

## 木材のピンとキリ

一昨日の日曜日、来月開催する植樹祭の会場となる約300㎡の杉林で、伐採した杉丸太の搬出をクラブ会員8名で行った。

かつて棚田であった場所に植えられた杉の木は、かれこれ40年くらいは経ているのだろうが、肥沃な農地に植林された杉の木の成長はすこぶる良く、太いものでは直径50cmにも達する大木になっている。しかし、こ



のような森の杉丸太は、太さこそ立派であっても、残念ながら品質は非常に低い。幹の中には木喰い虫が入り込み、丸太の中に腐りが入っていたり、また土質が悪いためなのか、幹の中に墨のような真黒なシミが入っていたりする。さらに、里山で好き勝手に伸びた幹は、大きく曲っているものが多い。

このような丸太は、木材市況の悪い今日の市場では、当然に品等は下の下である。中には、用材としての価値が無く、パルプ原料のチップにされるものもある。

昨今の木材市場の用材単価は、わがクラブが出荷した杉丸太の実績では、スギ丸太1㎡あたりの単価が1万円から6千円で、チップの場合になると1㎡あたり3千円程度になってしまう。このような単価では到底事業にはならず、丸赤字である。我々は、森林再生を将来に持続していく基盤づくりとして、採算抜きで社会に利用してもらうために市場に出荷しているが、せめて単価が今の2倍になってほしい。そうなれば、参加クラブ員にガソリン代くらいは差し上げられるのに。

そんな厳しい木材市場であるが、一昨日木材を出荷した際、すごい丸太を見た。樹齢120～130年の末口80cm位、長さ9m、約材積5㎡の桧丸太。産地は天竜だという。写真の丸太であるが、この価格はなんと100万円は下らないらしい。材木もピンからキリまであることを目の当たりにし、森林再生がますます面白くなりそうな予感がした。甘いかなあー。

2011年3月12日(土)

## 未曾有の地震災害

とんでもない災害が起きてしまった。テレビの津波の映像を見ていると、まさに津波が都市を次々に呑み込んでいくようだ。三陸の海岸付近に形成された都市は、ほとんどが壊滅的な状態だという。あつというまに到達した津波は、10mを超える高さの山のような水の壁が迫っていく。体験した住民のみなさんは、「悪夢のようだった。」と当時の恐ろしさを震えながら伝えていた。ほんとうに怖かったことだろう。心からお見舞

い申し上げます。

先ほど、総理大臣が国民にメッセージを寄せられたが、「これは国難である。政府はもちろん野党も一体となり、今日・明日・明後日は一人でも多くの人の生命を救出することに全力を挙げる。その後は、避難生活者への対応、そして仮設住宅等被災者の生活支援、さらに中長期の都市の復興に国挙げて対応していく。」と、また自らは「全身全霊、命がけで、この地震災害対策に取り組む」とおっしゃっていた。



「そのとおりだ」と、国民の1人として、総理が強いリーダーシップで、迅速・きめ細かな災害対策に真摯に臨んでくれることを希望する。一方で、私たち国民も、地震国ニッポンに暮らしていることを、この際に強く自覚し、日ごろからの備えに本気に取り組まなければならない。そして、自然に謙虚な気持ちで、次代を担う子どもたちのために、豊かな日本の国土を保全していかなければならない。

2011年3月21日(月)

#### 4/30植樹祭の意味

東日本大震災が発生してから10日が過ぎましたが、日ごとに人的被害の途方もない数字が明確となっています。そのような中での、9日ぶりにがれきの中から救出されたおばあさんとお孫さんのニュースは、必死に救出活動をされている自衛隊をはじめとする多くの機関や団体の方々の労を癒し、さらに今後の活動に希望も与えてくれたことと思います。また、原子力発電所の放射能抑制活動に生死を掛けて懸命にあたっておられる方々に、何もできない私たちは心から尊敬の気持ちを送りたいと思います。



このような状況の中ですが、私たち時ノ寿の森クラブの会員は、4月30日に計画している「いのちを守る森づくり」のための植樹祭の準備を進めています。大震災の被災者の方々の辛く、苦しい避難生活を応援する気持ちも込めて、今までよりも一層「いのちを守る森」の大切さを強調した植樹祭にしたいと思います。会員のみなさんの応援よろしくをお願いします。